

今月のトピックス

- インフルエンザ流行警報(警報発令基準値:定点あたり 30.00)が発令されました。
- 感染性胃腸炎が再び増加しています。
- 麻しんの海外での感染事例が報告されました。

全数把握の対象

【1 月期に報告された全数把握疾患】

細菌性赤痢	1 件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1 件
E 型肝炎	1 件	後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む)	1 件
デング熱	1 件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1 件
レジオネラ症	5 件	侵襲性肺炎球菌感染症	11 件
レプトスピラ症	1 件	風しん	3 件
アメーバ赤痢	2 件	麻しん	2 件
急性脳炎	2 件		

- 1 細菌性赤痢: *Shigella flexneri*(B 群)の報告が 1 件ありました。国内での感染が推定されています。
- 2 E 型肝炎: 50 歳代の報告が 1 件ありました。国内での経口感染が推定されていますが、詳細は調査中です。推定感染地域が国内とされている症例では、多くが生肉や内臓の喫食が関連しています。ブタ、シカ、イノシシなどの肉・内臓を食べる場合には十分加熱することが大切です。E 型肝炎となった場合、致死率は、一般の人々では、0.5-4.0%ですが、妊婦の場合では、17-33%と高く、注意が必要です。
- 3 デング熱: 1 件の報告がありました。渡航先(ベトナム)での感染が推定されています。
- 4 レジオネラ症: 肺炎型 4 件、ポンティアック熱型 1 件の報告がありました。感染原因等詳細は現在調査中です。
- 5 レプトスピラ症: 1 件の報告がありました。渡航先(インドネシア)での水系感染が推定されています。
- 6 アメーバ赤痢: 2 件の報告があり、うち 1 件は腸管アメーバ症で渡航先(タイまたはハワイ)での経口感染、もう 1 件は腸管外アメーバ症(肝膿瘍)で、国内での同性間性的接触による感染が推定されています。
- 7 急性脳炎: 2 件の報告があり、1 件は乳児で病原体は現在検索中です。もう 1 件は幼児で AH1pdm09 が検出されています。
- 8 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: 90 歳代男性の報告が 1 件ありました。感染原因感染経路不明です。
- 9 後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む): 無症状病原体保有者 1 件の報告があり、国内での同性間性的接触による感染が推定されています。
- 10 侵襲性インフルエンザ菌感染症: 50 歳代男性 1 件(ワクチン接種歴無し)の報告がありました。肺炎が認められ、血清型は f 型でした。
- 11 侵襲性肺炎球菌感染症: 11 件の報告がありました。そのうち、乳児 1 件(ワクチン接種歴 3 回有り、血清型未検査)と 80 歳代女性(ワクチン接種歴 1 回、血清型 1 型)以外はワクチン接種歴が確認できませんでした。予防にはワクチン接種が重要です。ワクチン接種歴の無い症例の年代と血清型は、80 歳代 1 名(血清型未検査)、70 歳代 3 名(血清型 7 型、15 型、35 型)、60 歳代 2 名(血清型 19 型、24 型)、40 歳代 1 名(血清型 19 型)、30 歳代 2 名(血清型 1 型、35 型)でした。
- 12 風しん: 3 件の 30~40 歳代男性の報告があり、いずれもワクチン接種歴が確認できませんでした。先天性風しん症候群予防のため、妊娠を予定・希望している女性は予防接種を受けましょう。流行の抑制には男性の予防接種も重要です。予防接種の助成が実施されています。先天性風しん症候群の発生には、妊婦が風しんに罹患してから出産するまでの期間のずれがあるので注意が必要です。  
[横浜市の風しん予防接種助成の詳細](#)(保健所)
- 13 麻しん: 2 件の報告がありました。どちらもワクチン接種歴は無く、うち 1 件は幼児で、海外(フィリピンセブ島)での感染が推定されています。ウイルスが検出されており、遺伝子型は B3 でした。もう 1 件は乳児で、こちらもフィリピンでの感染が推定されており、現在 PCR 検査中です。海外からの感染を広げないためにも予防接種が大切です。麻しんの検査診断にあたっては国立感染症研究所の「[麻しん検査診断アルゴリズム](#)」をご参照ください。また、診断の確定には適切な時期の PCR 検査が有用です。検査については最寄りの福祉保健

センターにご連絡ください。

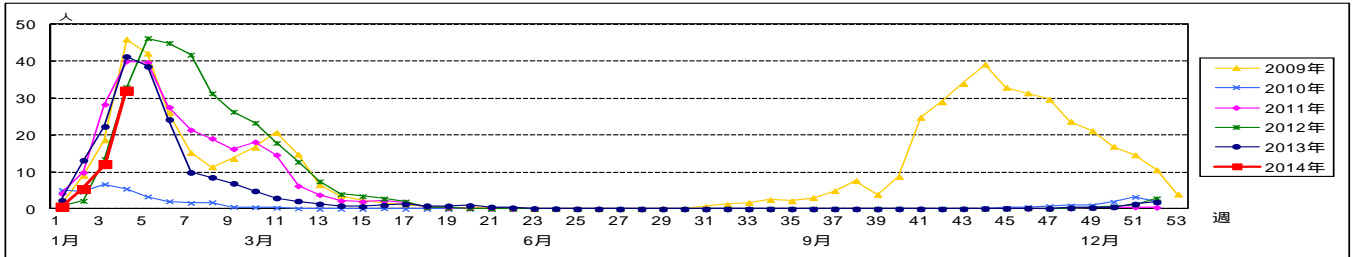
## 定点把握の対象

- 1 **インフルエンザ**:第4週は市全体で定点あたり32.06と、前週の12.15から急増しました。迅速キットの結果では、第4週はA型57.8%、B型41.9%、A型B型ともに陽性0.3%となっています。今シーズン衛生研究所で検出された結果はAH1pdm09型20件(40.0%)、AH3亜型10件(20.0%)、B型(Victoria系統)10件(20.0%)、B型(山形系統)10件(20.0%)となっています。今後、さらに流行が拡大することが予想されるため、予防や早期受診などの対策が重要です。

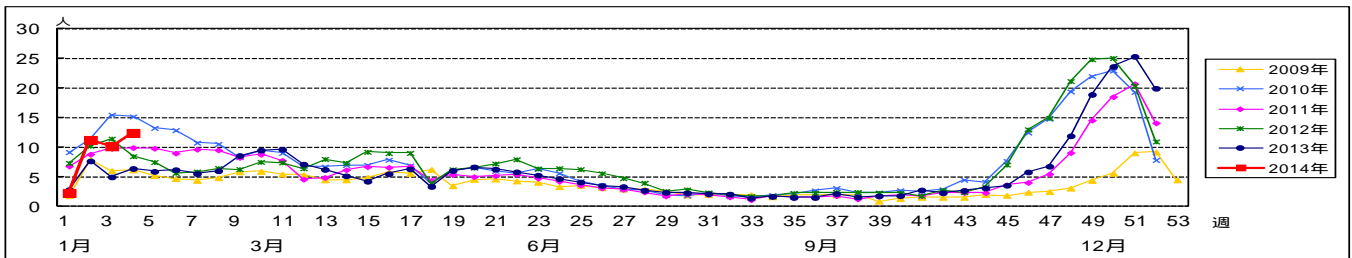
[横浜市インフルエンザ臨時情報](#) (衛生研究所)

[インフルエンザ予防チラシ](#) (横浜市)

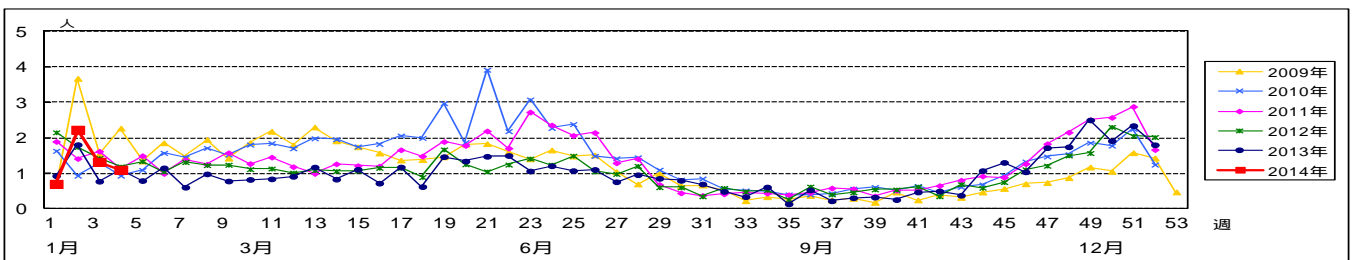
平成26年 週 - 月日対照表	
第52週	12月23～29日
第1週	12月30日～1月5日
第2週	1月6～12日
第3週	1月13～19日
第4週	1月20～26日



- 2 **感染性胃腸炎**:今シーズンは昨年第51週に定点あたり25.38と流行のピークを迎えた後、減少傾向にありましたが、第3週10.22、第4週12.44とやや増加傾向にあります。特に、神奈川区24.40、港南区20.40では警報レベル(警報発令基準値:定点あたり20.00以上)を上回っています。また、施設での集団感染や食中毒事例も依然として報告されており、注意が必要です。予防には手洗い、便や吐物の適切な処理と消毒、食品の十分な加熱が重要です。ノロウイルスの消毒には次亜塩素酸ナトリウムによる消毒が有効です。



- 3 **水痘**:市全体で第4週1.10と落ち着いていますが、中区5.00で注意報レベル(注意報発令基準値4.00以上)を上回っています。



- 4 **性感染症**:12月は、性器クラミジア感染症は男性が25件、女性が13件でした。性器ヘルペス感染症は男性が4件、女性が5件です。尖圭コンジローマは男性4件、女性が2件でした。淋菌感染症は男性が22件、女性が0件でした。
- 5 **基幹定点週報**:マイコプラズマ肺炎は第52週0.67、第1週0.00、第2週0.00、第3週0.00、第4週0.00となっています。感染性胃腸炎(ロタウイルス)は第4週に2件報告がありました。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。
- 6 **基幹定点月報**:12月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症12件、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症3件の報告がありました。薬剤耐性緑膿菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。  
横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>